

受付番号

44

許可番号

大歯医倫 第 111139 号

研究課題名

永久歯の先天性欠如と顎顔面の成長発育との関連について

研究責任者

松本 尚之

申請者

細山 有規子

研究終了日

2023 年 3 月 31 日

所属

歯科矯正学講座

所属

歯科矯正学講座

職名

主任教授

職名

助教

申請の概要

近年、顎の狭小化に伴い、永久歯が先天性に欠如した患者が増加している。先天性欠如は、上顎より下顎に多くみられ、特に下顎第二小臼歯が最も多いとされている。先天性欠如歯の原因として、顎骨の発育不全、下顎骨の短小化などが挙げられる。また、成長発育の指標としての、頸椎形態や、頸椎の成熟度により、成長発育段階を判断する試みがなされている。しかし、頸椎の形態と、顎骨の発育不全、下顎骨の短小化および永久歯の先天欠如についての関連性の報告が少ないのが現状である。

本研究では、永久歯の先天性欠如と成長発育との関連について調査を行い、顎骨の成長発育が、各永久歯の先天性欠如に及ぼす影響について検討を行うことを目的とする。

研究に用いる資料として、永久歯の欠損による不正咬合を主訴として当科を受診した患者のうち、永久歯の先天性欠如の部位に注目し、横断的研究として、治療のために撮影した側面頭部エックス線規格写真、およびパノラマエックス線写真を用いて、欠損の部位ごとにグループ分けをし、各々のグループについて、側面頭部エックス線規格写真を用いて顎骨の形成状態について評価を行う。さらに顎骨の発育過程で、顎顔面形態、咬合、歯の形態異常との関連が指摘されている

---

トルコ鞍の **bridging**、環椎の後弓の形成状態を計測し、歯の先天性欠如との関連について検討を行う。さらに、頸椎の成熟度段階から骨年齢を類推し、暦齢と骨年齢を比較し、顎骨の成長発育と歯の先天性欠如との関連について検討を行う。得られたデータは統計処理を行い、顎骨の成長発育と各グループの先天性欠如歯の成長発育との関連性について評価を行う。

本研究により、永久歯の先天性欠如と、顎顔面の成長発育との関係が明らかになれば、永久歯の先天性欠如を判断するには暦齢と比べ骨年齢が低い患者に対して、側面頭部エックス線規格写真やパノラマエックス線写真を用い、顎顔面の形態異常を確認することで、欠損部位についての矯正歯科治療の方針の決定に有用であると思われる。